

鶴見岳・伽藍岳火山防災協議会設立趣旨

我が国は世界有数の火山国であり、有史以来、数多くの火山災害に見舞われてきた。

火山災害を引き起こす現象は多岐にわたり、その影響は広域に及ぶことから、災害から生命を守る防災対応を的確に判断し、入山規制や避難等を迅速かつ円滑に実施することが極めて重要である。

行政や関係機関等は、防災基本計画や地域防災計画に基づき、平常時からの情報共有を通じて「顔の見える関係」を構築するとともに、「防災対応のイメージ」を共同で検討して避難計画を策定するなど火山防災対策の取組を進めなければならない。

鶴見岳・伽藍岳は、周辺には豊富な湧出量を誇る温泉があり、四季折々の自然を我々に与えてくれる。その一方、国内にある110の活火山の一つであり、鶴見岳は1200年前、伽藍岳は867年噴火の記録が残るなど、過去に大規模な噴火を繰り返し、今後も活動が続くと考えられる。

そこで、鶴見岳・伽藍岳の火山活動時の総合的な避難対策等に関する検討を共同で行い、火山災害に対する防災体制を構築することを目的として、鶴見岳・伽藍岳火山防災協議会を設置する。

平成26年 2月24日
大 分 県